

## 東京市芝浦棧橋上屋設備全景



## 東京市芝浦棧橋 上屋設備之概要

東京市に於ける隅田川口改良工事は大正十一年起工し、航路の浚渫に着手したるが、偶大正十二年九月の大震災に遭遇して、救援物資を積載せる船舶は遽かに芝浦口之出町地先に輻輳し、最大三千噸級以下の船舶百餘隻の碇泊を數ふるに至れり。然るに之等船舶は航路浅きと海陸連絡の設備缺如せるが爲め、物資の荷揚上多大の困難を生じ、多數の物資は露天に山積せられ、雨露に曝露するの窮状を呈せり。

茲に於てか、其の焦眉の應急的施設として日之出町地先に棧橋及上屋を建設する事とし

豫算 1,406,500 圓を計上し、十三年三月十七日之が工事に着手せり。

然るに、將來に於ける東京港水陸連絡設備との關係を考慮し、其の計畫上一部の變更を加へ、尙事務所建設並に曳船其他附帶設備の必要を認め、繼續年期を十三年及十四年度に更正し、豫算額を 1,602,768 圓に増加し、十四年末を以て略棧橋上屋及其の附屬設備の竣工を告げ、本年二月二十三日を以て之が使用を開始するに至れり。

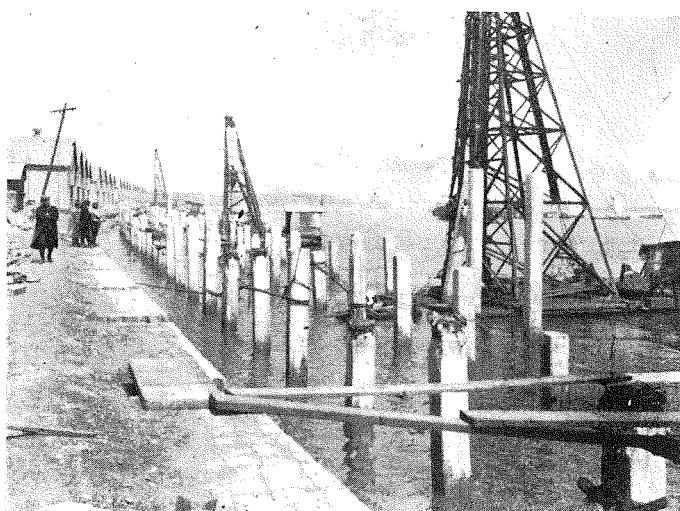
更に將來、連絡道路、橋梁、鐵道、倉庫及海上諸設備の完成を俟つて、海陸連絡設備の完璧を期せんこす。

### 工事の概要

#### 棧 橋

延長 310間、巾 7.5 間

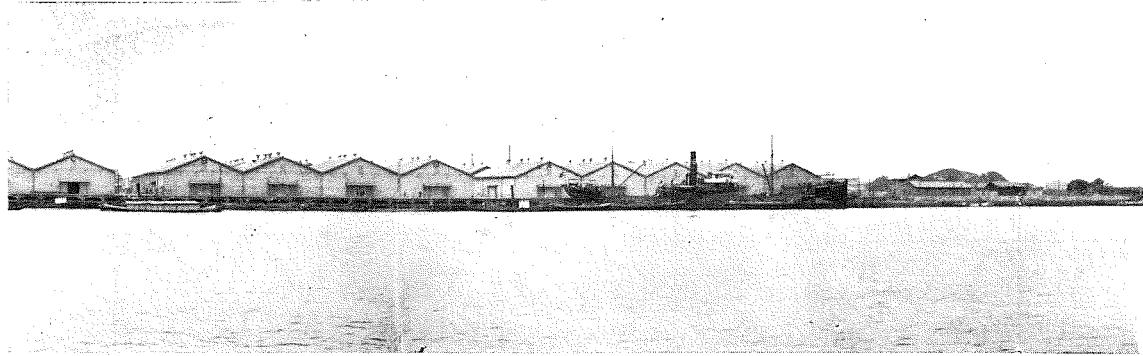
棧橋は鐵筋混擬土杭を15尺間



(2) 棧橋基礎工事中。  
基礎杭は鐵筋コンクリート  
1.5 尺角、長さ 42 尺乃至 30  
尺にして、在來物揚揚護岸  
前面の海中に地中 20 尺位を  
打込みり、中には岩盤深く  
してコンクリート杭の繼足  
しをなせし處あり。杭打機  
はモンキーの輕きスチーム  
ハンマーにて最初杭の上半部  
を打込み、下半部はドロ  
ップハンマーの重量 12 噸の  
モンキーにて打込み、二分  
止りとせり。杭打機は全部  
にて 4 台を使用せり。

(2) Foundation Construction.

(1) Warehouses at Shibaura Pier, Tokyo.



間に配列し、T型桁及斜材を以て連繋し、橋床は有效床板厚 5寸 3 し、橋面には縦横に軽便軌道を敷設し、揚力一噸の電動起重機 3台、大形繫船柱 7箇、小形繫船柱 22 箇、並に船舶給水栓 7箇を裝備し、三千噸級の汽船 6隻を同時に繫留せしむるこを得。

**海面の状況** 橋橋の全長に亘り、其の前面幅員 50間は干潮面以下 20 尺に、其の外方 50間巾は 12 尺以上の水深を保持し、外海より之に通する航路は、隅田川沿筋に沿ひ水深約 12 尺、可航幅員約 7,000 間を以て遠く舊砲臺沖に連接せり。而して是等航路及泊地は現に進工中にある隅田川口改良工事の進捗に伴ひ逐日其の深度を増加しつゝあり  
**物揚場岸護** 延長 58 間。橋橋の北方に連接する延長 58 間の護岸石垣は、六分の一の斜面を有する物揚場の構造ご

し、専ら艀船による貨物の荷役に適せしめ、其の前面は水深 8 尺を保たしむ。

**上屋** 建坪 6,320 坪。

上屋は一號より八號に至る 8 棟に分ち、棧橋に接して 5 棟 21 戸前を、其の背後に道路を隔て 3 棟 13 戸前を建設せり。上屋は倉庫を兼用し得るの構造ごし、軒高 18 呎にして、基礎は削栗混凝土地形、柱及小屋組等は全部鐵骨造ごせり。側廻り鐵板張り、屋根勾配 4 寸鐵板葺、天窓及出入口は鐵製ごし、床全部はソリデット舗装ごなし、全て耐災的構造ごす。

**道路** 構内道路は總面積 4,730 坪にして、全て舗石道ごし、幹線道路の幅員を 10 間ごせり。尙前後兩列の上屋間の道路は、將來鐵道引込線敷設に際し支障なきを期せり。

- (3) 橋橋フローワーピーム及びスラブコンクリート型枠工事中。  
15 尺間 3 列にビームとフローワーのコンクリートは同時に施工される  
(3) Concrete Forms for Floor Beam and Slab.

